

文教厚生常任委員会報告

平成 28 年 8 月 30 日

委員長 吉住 長敏

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。平成 28 年 7 月 26 日に教育部、翌 27 日は保健福祉部に対して関係部課長、係長等に出席を求め委員会を開催いたしました。

教育部

教育総務課 (34 分)

庶務係から平成 27 年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告の進捗状況について、施設管理係から学校施設整備の進捗、屋外遊具等の点検委託の報告。委員から小学校防犯カメラ設置のモニター設置の問いに、作動中の表示を 2 箇所、モニターはないが記憶媒体 SD カードを有事の際に捜査機関に提供する。生涯学習センターの駐車場の整備状況の問いに、8 月以降の現研修棟解体作業の影響も考慮し市立球技場全面を 230 台分が駐車可能な仮設駐車場として利用できるよう調整中。周辺の道路側のアートウォールで描かれた絵や花壇の対応の問いに、高さ約 50 c m の腰壁はすべて洗浄、白色で再塗装、郵便局側の大きなアート看板は現状のまま。現在でいう市道千鳥栗原線側が正面になることから統一感ある植栽計画で対応。通学路の危険箇所対応の問いに、通学路交通安全プログラムにより進めている。交流館へのアプローチの白の敷石の選択の意味についての問いに、白砂青松というコンセプトから白を基調を採用した。現在は新品で照り返し状態だが経年変化で使い込みにより色味は落ち着くとの説明でした。

学校教育課 (54 分)

小中学校の不登校児童生徒数、学童保育所の入所状況、就学援助支給状況、中学 2 年生職業体験学習「ドリームステージ」及び小学校 5 年生接遇マナー研修の実施、ALT による英会話の実施について概要報告。委員から不登校の要因はの問いに、一番は家庭的な背景がある。学童保育のキャンセルの要因、来年度以降の見通し、夏休み対応の問いに、キャンセル家庭の就労の状況変化が主、来年度以降は増床も含めて詰めて行きたい、急な人間関係の構築は難しく夏休み限定の対応は考えていない。中 1 ギャップから少人数学級の対応講師の状況の問いに、幅広くよりきめ細やかに活用。9 月以降の学校訪問で調査したい。就学援助支給は生活保護費の 1.3 倍の基準の取り扱いの問いに、より分かりやすい数値で検討中。新聞報道にみる部活動の指導員からのセクハラは本市ではないかの問いに、その報告はないとのこと。ポケモン GO 対応の問いに校長会等を中心に必要に応じて対応。青柳小学校のフッ化物洗口の実施状況の問いに希望しない約 1 割に配慮や夏休み中の歯磨きカレンダーを配布。ドリームステージ参加の子どもたち自身の感想表現の問いに、手紙や葉書を書く機会が少ない子どもの発信のあり方で貴重な指摘と受け止めた。

文化課 (39 分)

文化財係から船原古墳遺物埋納抗関係事業の進捗状況、文化振興係から歴史資料館並びに文化関係事業の報告と予定、図書館係から今年度の事業の報告と予定、その他、8 月 1 日から文化課職員を 3 ヶ月間益城町に災害支援派遣するとの報告。委員から船原古墳広場整備の計画図の問いに、5 月入札、業者と打ち合わせ中であるが来年度以降、広場の要素が固まっていくな見込み。暑さ対

策としての図書館の利用の問いに、8月に交流館開館でおめでとうキャンペーンを開催、エリアごとのエアコン設定等が可能、快適に過ごしてほしい。セカンドブック事業の受け入れ周知参加者が多くなればこがめルーム以外に視聴覚室等に対応、3歳児健診案内に同封。雑誌スポンサーの件数の問いに、現在は5件とのこと。文化協会との連携の問いに、車の両輪のように対応。市が保存している美術品の活用の問いに、テーマを決めるなど一定期間で掲示入れ替えなどで積極的に活用していく。

生涯学習推進課（59分）

社会教育振興係からリーパスプラザこが交流館開館式、第3回古賀市生涯学習笑顔のつどい、家庭教育支援事業及び成人式について、スポーツ振興係からクロスパルこが利用状況、こがっこ元気アップチャレンジ、子ども体力向上研究の学社連携事業「目指せ!子がスター」、公民館係からコスモス市民講座後期、研修棟イベント、その他として「サンフレアこが」の愛称、リーパスプラザこが利用の使用料減額団体登録制度の申請と該当状況に関しては、73団体から申請に37団体を該当。その内23団体が社会教育関係団体といった概要報告。委員から使用減免の判定基準や説明の機会の問いに、社会教育を目的として活動する団体に減免を適用。決定したのは社会教育委員の意見を参考に事務局5人程度で協議して決めた。自己研鑽を積むだけではなく、直接の貢献活動を継続的に行なわれている団体と説明。認定は3年間。非該当団体は年間2回の申請の機会を設けた。料金値上げに対する声の問いに、その声もあるが内覧会等を通じ500円でも安いという声も聞かれた。インターネット予約の問いに、交流館は浸透が進んだ時点で、スポーツ施設は慣れた方も多く4月以降導入予定。クロスパルこがの利用活性化策の効果の問いに、ウェルカムチケットは思ったより反応はいい。

青少年育成課（24分）

地域つながりあいさつ運動、日本の次世代リーダー養成塾、通学合宿、寺小屋、青少年育成団体、ししぶ児童センター（仮称）整備進捗の各事業で青少年育成課長から全般にわたり概要報告。委員からリーダー養成塾参加人数の問いに、申込み1人、参加1名。通学合宿の参加者の問いに青柳小は昨年36人、今年度26人。古賀西小昨年15人、今年度38人予定。ししぶ児童センターの改修階の確認の問いに、2階を児童館に改修。少年の船参加者増加で問題は生じていないかの問いに、昨年より倍近い申込みだがトラブルはない。寺小屋、通学合宿への課の関りの問いに、地域有志の協力が大きい。備品、施設の使用料の面で支援し、ワペルというボランティア団体を立ち上げ、人的支援をした。米多比児童館の老朽化対策の問いに、地元で検討委員会を設けている。

学校給食センター（35分）

平成28年度給食提供、食育推進事業の実績、地元農産物使用状況、食器破損状況の報告で概要説明。委員から行事食の問いに、鶏すきメニューの取り入れ。アレルギー対応の問いに、小中学校合わせて140人程度、表面的に変わらないものをめざすことで努力している。嗜好調査の問いに、献立委員会で反映させている。給食運営委員会に現場の声をいかすために会議資料を事前に配布してはとの問いに、検討する。水菜、小松菜、米以外の古賀市産品の取り入れの問いに、玉ねぎ、ジャガイモをできるだけ対応。食品ロスの取り組みの問いに、親子料理教室などを通じた食育を進めている。パンなどの残しはすべて廃棄しているとのことでした。

保健福祉部

隣保館「ひだまり館」 (28分)

隣保館係から、第1に地域交流促進事業、第2、就労サポート講座事業、第3、地域人権福祉教室、第4、スタンドアローン(一人で立つ)支援事業の進捗状況の概要説明を受けました。委員から平和教室申込み者の昨年度増の要因の問いに、2年続きで小学校職員会議での説明で理解が深まった、スタンドアローン支援第1次事業の時間帯と参加者数と指導員、今後の方向の問いに、午前9時から11時半、午後2時から4時。参加減の理由はわからない。指導員1人につき3人から5人対応。学習支援を含め教育部と児童館のあり方等を協議中。健康福祉まつりと隣保館まつりの同時開催に関する問いに、今年度は地域行事と重ならない対応とか若い方への参加を促したい。

子育て支援課 (36分)

こども係から保育所入所状況、病児保育の利用状況、法改正による保育料変更及び子ども・子育て会議に関して、家庭支援係からつどいの広場事業の参加状況、こども発達ルーム、家庭支援係の相談受付件数、子育て支援サポーター養成事業、その他として、課長より平成29年4月、福岡東医療センターに開設予定の病児保育所の整備で9月補正予算計上、平成27年度出生率に関して概要報告がありました。委員から保育所各園入所の違いはの理由の問いに、第一希望順に保育所と協議した結果。ファミリー講座の父親参加が少ないがとの問いに、昨年は父親メインのイクメン道場としたが母親も参加という状況だった。内容は父親参加促進のため土日の開催含めて今後工夫したい。成人相談の多重債務問題はどうかの問いに、県のひとり親家庭の貸付事業、庁内に生活再生支援係と連携を凶っている。全戸訪問で気になる家庭に関しては予防健診課等と連携し養育支援につないでいる。IPPO事業の取り組みの問いに、これまで2クール終了、12組満員で実施。病児保育の詳細の問いに、新宮町との共同事業3人定員から始めた。詳細は先方と協議中。

介護支援課 (48分)

介護予防係から外出促進事業、包括支援センター係から「寄って館」事業の状況、介護予防・日常生活総合事業の利用状況。介護保険係から介護保険サービスの利用状況について概略の説明。委員から外出促進行政区活動一覧の掲載働きかけに関する問いに、引き続き積極的に地域に声をかけ展開中。要支援1、2認定者の総合事業移行内容の問いに、4月段階で事業対象者48人の内、7人が要支援から移行した総合事業対象者で移行によるトラブルはない。新たなゆいの体制の問いに、スタッフを強化し、介護予防サポーターも現在188人登録があり、順調にスタート。独り暮らし高齢者の見守り体制の問いに、新聞配達、電気メーター検針、ごみ収集など様々な情報収集体制をしいている。新たな介護施設整備に関する問いに、1億総活躍社会の実現で病院区の一部土地が活用に関し福岡財務支局と協議中。特養の待機者は40人程度。2025年問題に向け小規模多機能型居宅介護含めて状況を見極め先手打った整備との説明でした。

予防健診課 (31分)

健診指導係から特定健診・がん検診、健康づくり係から予防接種事業と健康づくり人材育成、次期ヘルスアップぷらん及び食育推進計画の策定準備状況について、さらに過去に接種された子宮頸がんワクチン予防接種の実態調査の実施準備で9月補正との概要説明。委員から乳がん検診にマンモと触診にエコーをの声についての問いに、他自治体の事例はある。国の動向等を見ながら進める。乳幼児B型肝炎ワクチンの定期接種化への副反応は心配ないかの問いに、国で有効との

決定で進めている。心配なケースは相談窓口で対応。特定健診受診率 35%の勧奨策に関する問いに、集団健診申込の8月締め切りや医療機関での受診に向け電話や訪問勧奨、イベントでのPRを続ける。35%を達成するには3,300人程度の数と見込むとのこと。

福祉課 (43分)

冒頭、課長から避難行動要支援台帳に関する紛失のその後の対応、再発防止改善策に関して、福祉政策係から災害時要援護者避難支援対策の進捗、平成28年度臨時福祉給付金等の給付事業、第30回健康福祉まつり、秋季戦没者追悼式、障害福祉係から障がい者就労支援、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律施行への対応、保護係から生活保護の現況、生活再生支援係から生活困窮者自立相談支援事業に関して概要説明。個人情報紛失防止に関する徹底の問いに7月の課長会で状況報告、各職場研修等で組織全体に徹底を図った。障がい者が働きながら疑問を持った時の相談窓口に関する問いに、家族環境等を把握している計画相談事業所にまず相談を。就職2人は古賀市内事業所かの問いに、市外の事業所で職種は、清掃と荷物の仕分け作業。障害者施設元職員の事件に関する対応の問いに、就労部会や連携会議で取り上げたい。ケースワーカーの職務に関する問いに、1人当たり大体82世帯を受け持ち、処遇困難なケースは情報を共有し対応しているとのこと。

以上、議会閉会中の調査事項の付託案件について調査の概要報告を終わります。